

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社 ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵摂津・千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘東1-13-7 (電話) 072-625-9555		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	20年 3月 11日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】 (20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 8日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	24人	常勤13人, 非常勤11人, 常勤換算	19.95人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建ての	2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	27名	男性	9名	女性	18名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	12	要介護4	6		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 81.8歳	最低	56歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	摂津医誠会病院・千里丘クリニック・すなみ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に商店・公園があり便利で外出しやすい環境の中、採光に恵まれた清潔な生活空間が確保されている。職員は利用者がその人らしく生活できるように支援しながら、行事、外出、食事・おやつ作り、役割・活躍の場の提供など、楽しみと張りのある生活が出来るように取り組んでいる。1階のクリニックを協力医療機関に持ち、往診・訪問看護・訪問リハビリなど健康管理面でも大きな安心感を与えている。家族との連携、地域との交流も円滑に行われており、運営推進会議、避難訓練なども定期的実施され、組織運営が整備されている。現在、書類の書式の見直し・職員育成の充実などさらなるサービスの質の向上を目指して、職員が一丸となって取り組んでいる熱意が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果は館内に掲示し、運営推進会議で紹介することにより、利用者・家族に公開している。また、ミーティングの際、職員全員で協議し、改善策を検討し改善に取り組んできた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の受審については、評価受審の意義や評価項目についてフロアーミーティングで話し合い、職員の意見をまとめてフロアーリーダーが自己評価を作成し、マネージャーミーティングで完成させた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	利用者・家族・自治会長・地域包括センター職員が参加し、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では、ホームの行事・活動・利用者の様子などを報告すると共に、外部評価・AED設置・終末期ケアなど様々なテーマで話し合いを行い、外部の人々の意見をケアに反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族の面会の際話しやすい雰囲気配慮すると共に、家族会・意見箱を設置するなど、積極的に意見・苦情・要望を聞くことが出来るようにしている。出された意見については会議で話し合い、職員に周知し改善に取り組んでいる。市の相談員を掲示板で紹介するなど、外部の人にも相談できるように配慮している。今後はアンケート調査など、ホームを訪問する機会が少ない家族も意見が表出できるような取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	市役所介護保険課・地域包括支援センターの担当者への相談・報告を通して連携を図り、社会福祉協議会の職員の見学を受け意見交換を行っている。また、定期的な市の介護相談員の訪問の際助言を受け、サービスの質の向上に役立っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「より良い介護」・「感動ある介護」という基本理念は、簡潔で利用者・家族・職員にも理解しやすい。パンフレット・契約書・運営規定には、「家庭的な環境のもとで」というグループホームの基本方針が記載され、施設内の掲示には「地域社会との信頼関係」という地域密着型サービスの役割についての文言が加えられているが、基本理念としての明文化には至っていない。ただし、新年度から掲示に盛り込む予定である。		制度改正により改められた、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしてのグループホームの基本方針が、計画通り基本理念に盛り込まれることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員には、オリエンテーションで基本理念について説明している。施設内、各フロアに掲示すると共に、フロア会議の話し合いの中で基本理念に立ち戻って議論し、日々の介護に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、体育祭・秋祭りなど地域行事に積極的に参加し、AEDを設置した街角ステーションとして地域での役割を果たすなど、地域の一員となる取り組みをしている。また、「ゆうとぴ庵通信」に地域の歴史について紹介する自治会長の記事を継続して掲載し、利用者・家族・職員に地域についての知識・情報を提供し、地域で暮らす一員としての意識を高めている。		

3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果は、館内に掲示し、運営推進会議で紹介することにより、利用者・家族に公開している。また、ミーティングの際職員全員で協議し、改善策を検討し改善に取り組んできた。今回の受審についても、評価受審の意義や評価項目についてフロアーミーティングで話し合い、職員の意見をまとめてフロアーリーダーが自己評価を作成し、マネージャーミーティングで完成させた。</p>	
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者・家族・自治会長・地域包括センター職員が参加し、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では、ホームの行事・活動・利用者の様子などを報告すると共に、外部評価・AED設置・終末期ケアなど様々なテーマで話し合いを行い、外部の人々の意見をケアに反映させている。</p>	
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所介護保険課・地域包括支援センターの担当者への相談・報告を通して連携を図り、社会福祉協議会の職員の見学を受け意見交換を行っている。また、定期的な市の介護相談員の訪問の際、助言を受けサービスの質の向上に役立っている。</p>	

4. 理念を実践するための体制				
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、写真を豊富に掲載した「ゆうとぴ庵通信」を郵送し、ホームの行事・活動の報告、職員の紹介、来月の行事への参加の呼びかけなどを行い、ホーム内の様子を報告している。また、利用者一人ひとりの健康状態・生活状況も、「近況報告」を毎月郵送し報告している。ご家族の面会の際、管理者・フロア責任者が対応し報告を行っている。また、緊急・随時の報告・意向の確認については、その都度電話で行っている。家族会を1年に1回定期的に開催し、1年間の報告の場として活用している。</p>	
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会の際、意見・苦情・要望など話しやすい雰囲気配慮して積極的に話をうかがっている。家族会を設置し、年に1回会合を開催し、意見などを聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設置し、匿名でも意見が表明できるように工夫している。出された意見については、フロア会議で話し合い、報告書を作成すると共に、職員に周知し改善に取り組んでいる。玄関掲示板に市の相談員を写真入で紹介し、外部の人にも相談できるようにしている。今後は、ホームを訪問する機会が少ない家族も意見が表出できるような取り組みが望まれる。</p>	<p>ホームを訪問する機会が少ない家族からも意見が求められるような、また、家族からは意見が言い難いという点も考慮した、定期的なアンケートなどの、満遍なく家族に意見を求められる方法の検討が望まれる。</p>

9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への影響を考慮し、職員の移動は最小限にとどめるように配慮している。また、移動による利用者へのダメージを防ぐために、日ごろからフロア間の交流を行い、合同レクリエーションの機会を持つなど、利用者が全職員と馴染みの関係が構築できるように取り組んでいる。職員の離職を防ぐために、個人面談など管理者に相談・意見表明できる機会を作り、問題を抱え込むことなく一緒に解決していけるように努力している。また、職員のスキルアップへの支援、責任職への配置など、職員が定着する魅力のある職場作りを目指して努力している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者には、オリエンテーションの後、OJTによりホーム内での業務が円滑に修得できるように取組まれている。内部研修・外部研修の年間計画を立て、職員が学びたいテーマを取り上げて職員中心の勉強会も開催している。外部研修については案内を掲示し、希望者にはシフト調整・交通費の補助など参加への支援をしている。資格取得についても受験料・合格後の研修参加について支援し、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>摂津市の介護事業者連絡会に参加すると共に、市内のグループホームとも交流を持ち相互訪問なども行っている。また、同法人内の同業者とは、管理者・職員共に交流・連携し、サービスの質の向上に役立てている。</p>		

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に管理者が利用者を訪問し、また利用者・家族がホームを見学・体験利用する機会をできるだけもってもらうことにより、本人が職員やホームに馴染みながら利用に移っていけるよう取組んでいる。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用開始時のアセスメント・入居後のかかわりの中で、できること・したいことを把握し、日常生活の中で役割と活躍の場を提供している。小唄・手話など利用者が得意とすることを職員が教えてもらったり、各利用者が無理なく参加できる家事を一緒に行いながら、共に生活できる環境に配慮している。。</p>	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に利用者・家族から希望・意向を聴取し、入居後も日々の会話の中で聞き取ったり、家族との話の中で把握したりしている。生活歴・趣味・好み・希望・意向などを具体的に記入し、新しい情報を書き加えていける書式を現在検討中である。</p>	<p>利用開始時に聴取した生活歴・趣味・好み・希望・意向などを具体的に記入し、入居後のかかわりの中で把握した情報を追加して記入できる現在検討中の書式を完成させ、活用することが望まれる。</p>

2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画は、利用開始時のアセスメントで利用者・家族から聴取した希望・意見を基に、管理者・計画作成責任者・居室担当職員が話し合って作成した後、再度利用者・家族と話し合い、同意を得ている。介護計画の内容については、ケア実施表に明記し、職員が日々のチェックの際に確認し周知できるように工夫されている。</p>	
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回全職員に、モニタリング表を配布し、フロアーミーティングにおいて、利用者全員についてのカンファレンスを行い、その結果を踏まえて担当者が介護計画を見直しす方法を最近導入した。</p>	<p>モニタリングは毎月1回実施し、ケアプランの見直しは最低でも3ヶ月に1回行う取り組みを始めたばかりであり、今後も試行錯誤しながら取り組みの継続を期待する。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>24時間の医療連携体制加算を取り、利用者の急変時などに迅速な対応ができ、安心した生活が送れるように支援している。また、1階にクリニックがあり、往診や訪問看護なども柔軟に対応している。希望者には、医療保険でのマッサージや鍼灸などが受けられるように支援している。</p>	
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・外科は週3回、歯科は、毎週土曜日に往診があり、提携医療機関との連携を密にし健康状態の安定に心がけている。利用者・家族の希望により、以前のかかりつけ医への通院などにも対応している。</p>	

19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの方針として、「看取りの指針」を作成し、契約時において利用者・家族に充分理解してもらえるように説明を行ったうえで、同意書を交付している。</p>		<p>ホームとしての方針を全職員で共有し、不安なくよりよい介護ができるように、重度化や終末期についての研修を定期的に行っていくことが望まれる。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時において、雇用契約の際に、個人情報の取り扱いの説明を行っている。また、入職時オリエンテーションの際にケアの要点などで、利用者への言葉かけや対応・プライバシーの確保について配慮するように説明をし、日ごろの業務の中でも常に心がけている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の日課の基本的なスケジュールはあるが、利用者の意向を大切に、一人一人のペースに合わせた生活リズムで暮らしていけるように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>カロリー計算や栄養バランスに配慮した献立で、季節感を取り入れた食事が提供されている。また、各フロアの職員がメンバーとなって食事委員会をつくり、利用者の希望を聞き、毎日の献立にひと工夫できるように取り組んでいる。さらに、月に何度か、利用者が職員と一緒に献立を考え、菓子作りや食事作りが楽しめる機会も設けている。食事中は、職員がさりげなくサポートしながら、家庭的な雰囲気の中で、各利用者が自分のペースで食事を楽しんでいる。</p>		

23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂の準備をして、利用者が入りたい時間に入れるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントで収集した生活歴や趣味をヒントに、日々の暮らしの中から拾い上げた情報をもとに利用者のできることや楽しみごとを見出し、張りのある暮らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は近所の公園や神社を散歩したり、喫茶店に出かけたりして外出を楽しんでいる。利用者の希望でドライブスルーで好きなハンバーガーなどを買いに行くなど、個人の希望に沿った外出の機会も設けている。また、玄関の掃除や花の水やりやなど、短時間でも外の空気に触れることができるように取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・エレベーター前のフロアは施錠するようにしているが、館内は広く、職員が希望に応じて、フロア間の行き来や外出に対応しているので、閉塞感は感じられない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、1月と7月に昼と夜間を想定した避難訓練を、利用者も参加して行っている。また、地域の避難場所も確認し、職員への周知と家族にも連絡をしている。災害時に備え、ペットボトルの飲料水の準備も行っている。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の食事量、水分量を細かくチェックしている。食事は、品目ごとの摂取量を把握し栄養の偏りが起こらないように支援している。水分は午前、午後と就寝前にチェックし、脱水などの予防に心がけている。</p>	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、明るく清潔感があり、各フロアーごとに利用者の雰囲気にあった飾りつけがされ、個性が感じられる。利用者と共に作成した飾り付けで季節感を味わえるように工夫されているが、過度にならず安らげる空間になっている。。</p>	
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットと机以外は利用者が以前から使いなれた馴染みの物が置かれ、その人らしい居室作りが出来て安心して暮らしていけるようになっている。また、仏壇・趣味の品などを持ち込み、以前からの生活習慣が継続できるように支援している。</p>	

 は、重点項目。